

令和八年一月二十四日(土) 十三時半始(開場十二時五十分) 於 観世能樂堂

二十五世観世左近記念

HAAGOROMO

● 羽衣 松木崇俊

● 鞍馬天狗 白頭 松木千俊



第三十八回

まゆみ

檀の会



第三十八回

まゆみ

檀の会



● 羽衣 松木崇俊

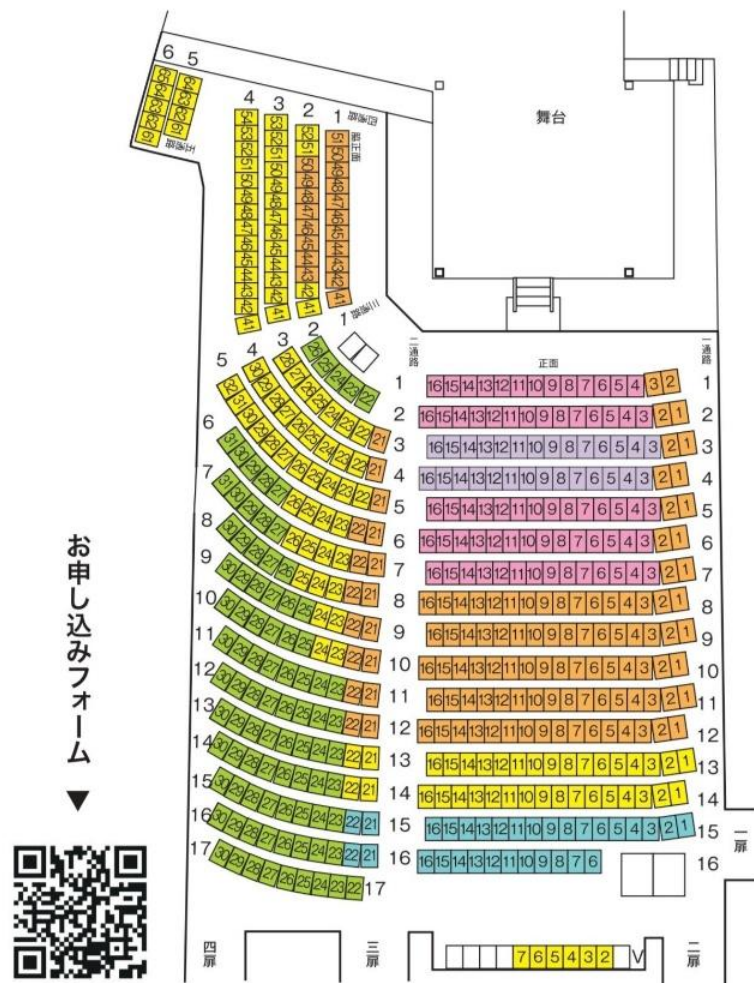
● 鞍馬天狗 白頭 松木千俊



KURAMA TEN GU

令和八年一月二十四日(土) 十三時半始(開場十二時五十分) 於 観世能樂堂

二十五世観世左近記念



観世能楽堂 座席表

チケット料金表 (税込)			
特別席	15,000円	SS席	13,000円
S席	11,000円	A席	9,000円
B席	※ 8,500円	C席	6,500円
学生席	3,000円	※字幕解説タブレット付	

- 座席をご指定する場合は上記の金額プラス2,000円になります。
- ※以外の席の字幕解説用スマートフォンをご使用の場合は別途1,500円になります。(各一列目の座席での使用は不可)要予約
- チケットの発送は12月初旬以降を予定しております。

- ・諸般の事情により、演目・上演形式・出演者の変更の場合もございます。
- ・館内の空調はお席によっては冷暖房の温度高低に差がございます。予め御留意いただけますようお願い申し上げます。
- ・公演中の許可の無い写真等の撮影・録音・録画はご遠慮ください。これらの行為は法律に抵触する場合があります。
- ・演能中の見所への入退場につきましては、制限させていただく場合がございます。何卒ご了承ください。

二十五世観世左近記念

観世能楽堂

東京都中央区銀座6丁目10番1号 GINZA SIX 地下3階
TEL 03-6274-6579

- 銀座駅／東京メトロ銀座線・日比谷線・丸の内線A5出口より徒歩2分
- 東銀座駅／東京メトロ日比谷線・都営浅草線A1出口より徒歩3分
- 有楽町駅／JR山手線・京浜東北線／東京メトロ有楽町線 銀座出口より徒歩10分

ご案内

本公演は第一回檀の会と同じ演目です。
世代交代をテーマに据え、檀の会の新たな息吹を感じていただける構成です。

一般社団法人

松の会

Matsunokai

事務担当：080-2555-0626 (佐藤)
TEL・FAX：03-6767-5555
E-mail：matsunokai@gmail.com
HP：http://matsunokai.com/

※お申し込み・お問い合わせを頂いた際に不在の場合は留守番電話にお名前・ご用件・ご連絡先をお入れ下さい。折り返しご連絡させていただきます。

能●鞍馬天狗「はごろも」

(檜書店「能サボ」より抜粋)

三保の松原(静岡県清水区)に住む漁師の白龍(ワキ)が、仲間の漁師たち(ワキツレ)と長閑な浦の景色を眺めています。白龍は、松の枝に美しい衣が掛かっているのを見つけ、持ち帰って家の宝にしようとしています。

そこへ天人(シテ)が現れ、その衣は自分の羽衣であると言い、衣がなくては天に帰れないと嘆き悲しみます。白龍は、天人を哀れみ、舞を舞って見せてくれるならば、羽衣を返そうと言います。天人は、羽衣がなければ舞うことができないと答えると、白龍は先に衣を返すと舞わずに天へ去ってしまうのではないかと疑います。すると、天人は「いや疑いは人間にあり、天に偽りなきものを(疑いを持つのは人間にのみあることで、天には偽るということはないのに)」と述べます。その言葉に白龍は恥じ入り、衣を返します。喜んだ天人は羽衣を身にまとうと、月世界の神秘と美しさを称えた舞を舞います。そして地上に数々の宝を降らすと、やがて夕暮れの霞の中を、三保の松原から富士の高峰へ次第に天高く昇っていきました。

能●鞍馬天狗「くらまてんぐ」

(檜書店「能サボ」より抜粋)

鞍馬山の奥僧正が谷に住む山伏(前シテ)が、花見があると聞き、自分も花を眺めようと思い立ちます。鞍馬寺の能力(寺男)「アイ」が花見の招待を東谷の僧(ワキ)にキツレに届けます。そこで僧は寺で預かる稚児たち(子方)を連れ、花見をします。能力が余興の舞を舞うと、山伏が花見の場に姿を現します。能力は追いつてますが、僧は能力を制止し、花見をやめて稚児たちを連れて立ち去りました。

残ったのは一人の少年(子方)と山伏。山伏が疎外された身を嘆くと、少年は山伏に同情して声をかけます。二人は互いに親しみを覚え、心を通わせます。少年は源義朝と常盤御前の間に生まれた牛若丸であると素性を明かします。山伏は不遇の牛若丸を不憫に思い、桜の名所に案内します。そして自分は鞍馬山の大天狗であると名乗り、明日牛若丸に兵法の大事を伝えようと言いつつ残すと、大天狗は谷を指して雲を踏んで飛び去りました。

長刀を手にした牛若丸の前に、大天狗(後シテ)が出現。大天狗は牛若丸に、漢(古代中国)の張良が黄石公に靴を捧げて誠意を見せた結果、兵法を受けることができた由来を語り、その奥義を伝授します。さらに牛若丸の平家討伐を予言し、守護を約束すると名残を惜しむつつ鞍馬の山へ翔って行きました。

(檜書店「能サボ」より抜粋)

今回は白頭の小書(能の特殊演出)をつけて上演します。この小書では常は赤色の後シテの頭(かしら)が白頭(しろがしら)という白いものになり、老体のより威厳のある大天狗としての装いになります。型や謡も天狗の威厳を感じさせるようなものになります。